

Title	戦略的物流情報システムの構築への提言
Sub Title	
Author	小瀬洋(Ose, Hiroshi) 柳原一夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1987
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1987年度経営学 第535号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001987-0535

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	小 瀬 洋	主査	柳 原 一 夫
	(ライオン株式会社)	副査	和 田 充 夫
所属ゼミナール	柳 原 一 夫 研		青 井 倫 一

戦略的物流情報システムの構築への提言

2度にわたる石油危機を経て、低成長経済が定着するなかで、「大量生産・大量販売」から、消費者ニーズの多様化を反映した「多品種少量生産」へと流れは一変した。こうした変化に伴い、いわゆる“川下側”からは「小ロット・多頻度・短納期」対応が要求されるようになったのである。

今日までのメーカーの物流課題の本質は、物流をどうして効率化し合理化するか、つまりコストリダクションの追求が最大の命題であった。すなわち物流の高度化・専門化、合理的投資を通じて人と経費の削減を図ることがその基本目的だったといえる。

そして現在、大型量販店、コンビニエンスストアの発達とともに、国民の消費行動の変化と相まって、多品種・少量・多頻度物流に象徴されるように新しい流通パターンが定着しつつある。そうした状況下においては、小売主導型チャネルシステムがメーカー主導型システムを凌駕しつつあるといわれているが、メーカーとしても長年、培ってきた既存チャネルの再活性化という戦略が大きくクローズアップされてきたのである。

それはこれまでの自社の物流という枠の中での戦略いわば物流戦略から、物流を経営戦略の一環として位置づけし直す、すなわち「戦略的物流」として、内部においては、物流—販売—生産を一体化し、外的には自社のみによる垂直的ネットワークから業界全体、さらに業界を超えてのいわば水平的ネットワークの構築が重要になってきたといえるのである。